

■木城花野 歌人・教育者。彰義隊員の埋葬供養を訴え、大教院の教導、女子師範学校舎監になるも、直後に没した。

きしろはなの

膝栗毛終・・・1822＝ 父は伊豆菰山代官江川太郎左衛門配下の飯田源忠で、江川邸で生れる。初名は由子。

富嶽三十六景1831＝ 9歳：

鼠小僧磔・・・1832＝10歳：\_菊池袖子に入門して和歌を学び、

\_師の称賛をうけた詠歌にちなんで花野と号した。

のち父と江戸に移り、

大塩平八郎乱1837＝15歳：

適塾ホヰン・・・1838＝16歳：\_菊池袖子の死去後は、

勸進帳初演・・・1840＝18歳：

\_加藤千蔭門の木村定良・村田芳樹に和歌・国学を学ぶ。

阿部正弘首座1845＝23歳：

\_幕府監察(のち目付)木城安太郎(三右衛門)と結婚し、

北斎没・・・1849＝27歳：

\_11子を産むが、

ペリー来航・・・1853＝31歳：

安政大地震・・・1855＝33歳：\_この年生まれた甚之助以外、

五ヶ国条約・・・1858＝36歳：

\_すべてが夭折し、子を育てるに足る学問がないのだとして、岡本保孝について考証学を修める。

桜田門外変・・・1860＝38歳：

大政奉還・・・1867＝45歳：

明治維新・・・1868＝46歳：\_鳥羽伏見戦争後の彰義隊の行動に心を打たれ、戦禍のあとに幾日も放置された遺骸を見て義憤を感じ、彼らも国のために戦ったことに変りないのだからとの思いから、勝海舟に書翰を投じ、早急に遺骸を葬り忠義の霊を弔って欲しいと訴え、"上野山動かすさらで郭公鳴く音血をはくさみだれの頃"の1首を添えた。のち徳川家達の駿府入りに従い、夫の安太郎とともに静岡に移り、禄を失ったため、

戊辰戦争終・・・1869＝47歳：

\*安西町に私塾を開いた。塾生の中に津田真道・中井敬所などの名が見える。一子直(甚之助改め)は母の資質を継いで聡明で、この年、14歳で抜擢され藩学の英学教授になった。

初の日刊新聞1870＝48歳：

\_藩命で大学南校に入り貢進生となった甚之助は勉学が過ぎて眼疾となった。花野は塾を閉じて上京、看病のかたわら御歌所西三条家女方執事となり、

明治6年政変 1873＝51歳：

\*大教院の女教導職をつとめるが、直が17歳で早世、落胆のあまり木城の家を出るとともに職を辞する。

初の民間工場1875＝53歳：

\*栃木県の模範女学校に一等教師として招かれ赴任、

三つの内乱・・・1876＝54歳：

\_女子師範学校の寮監を兼ね、人望を得て学生に慕われるが、

沖縄県編入・・・1879＝57歳：

\*退職し、没した。